

## 『日本発多言語国際情報発信の現状と課題』

### 出版記念座談会（第二弾）

4月14日（木）18時10分～20時45分

早稲田大学政治経済学部3号館10階大会議室

- ・テーマ 国際社会との協調に果たす学界の役割
- ・主催 現代政治研究所「日本の対外発信」研究部会
- ・開催主旨 論文集出版記念の座談会第二弾。執筆者を含む研究者が自身の専門分野の学界活動を通し、国際競争から“国際協調”に果たすべき共通課題を座談会形式で討論する。

18:10—18:15 開会の挨拶 室井禎之（本学政治経済学術院教授）

Keynote Speech（敬称略）

18:15—18:45（含質疑応答、以下同様）

- ・飯山知保（本学政経学術院非常勤講師）  
「東アジア歴史学界の国際交流」

本報告では、アジア史分野におけるポストクの国際的流動性の増大と、それに対応したヘブライ大学の試みに基づき、共通の研究課題を追求する研究センターと国際交流のあり方について展望する。

18:45—19:15

- ・西山教行（京都大学大学院人間・環境学研究科教授）  
「国際協調に果たすフランス語学界の活動」

日本において外国語教育研究は国外へ向けて、学会誌や研究会の開催、研究発表などを通じてさまざまな発信を行ってきた。この報告では、フランス語教育学界の事例を出発点としながらも、より一般的な形で人文学の知の国外発信の課題を考察する。

19:15—19:45

- ・吉江修（本学北九州大学院 IPS 研究科長、教授）  
「グローバル化への対応～地域連携型教育研究の構想」

大学のグローバル化が言われて久しいが、私が職場とする大学院では、留学生の比率が87%に達している。このような多文化共生の環境にあっても、魅力ある大学づくりの基本は、若者のひたむきさを受けとめる姿勢を忘れないことであり、学生の国籍による違いはない。受け入れ側の教職員も、「日本に来たのだからその流儀に慣れて下さい」では済まされず、彼らのひたむきさを受けとる覚悟と、工夫が必要である。その解のひとつとして、地域と大学とが連携して彼らとともに未来を担うことを考えたとき、新たな大学モデルがみえてきた。

19:45—20:15

- ・黒田一雄（本学国際部長、大学院アジア太平洋研究科教授）  
「アジアの高等教育ガバナンス」

東アジアにおける高等教育は、ASEAN・日中韓・ASEAN+3・アジア太平洋と、多層的な地域的ガバナンスの枠組みを形成しつつある。域内での留学生の移動や政策的連携がどのような東アジアの高等教育の未来を築くのかを論考する。

20:15—20:45 総合討論 Moderator: 室井禎之、砂岡和子（本学政治経済学術院教授）

主催：早稲田大学現代政治経済研究所「日本の対外発信」研究部会  
無料、事前登録不要 連絡先：quyang@toki.waseda.jp（曲揚）

多くの皆様のご参加をお待ちします。

早稲田大学現代政治学研究会「日本の情報発信」特別部会  
砂岡和子（部会代表 専門：中国語教育、遠隔教育）  
宗像和重（専門：日本文学研究）  
ソジェ内田恵美（専門：応用言語学、日本研究、政治ディスコース分析）  
生駒美喜（専門：ドイツ語音声研究、会話分析、学習者言語の分析）  
加藤青延（専門：日本の報道分析、国際報道）  
堀晋也（専門：外国語教育（フランス語）、言語政策）